

シンポで起業の苦労や喜びを語る若手起業家たち＝岐阜市のじゅうろくプラザで

# 岐阜で起業支援シンポジウム

## 若手奮起へ 先人こつつ伝授

起業を目指す人たちを後押しする「起業チャレンジ・シンポジウム」(県産業経済振興センター主催)が二十日、岐阜市のじゅうろくプラザで開かれ、若手起業家が起業のこととやりがい語った。

(石井宏樹)



同センターは二〇〇八年度から、県の補助を受けて講座「ぎふ起業家育成塾」を開講している。企業の事例紹介やビジネスプランの個別指導を行い、〇八、〇九年度で十八人の修了生を輩出した。これまでに六人が中古携帯電話販売や地場産品のネット販売などの分野で新たに起業。勤務先企業で新分野進出に挑戦する修了生もいる。

古屋市)の富田茂社長と、修了生で製品デザイン会社「カロツツェリア・カワイ」(多治見市)の川合辰弥社長と、洋菓子屋「パティスリーアタッシュエ」(岐阜市)の藤井宏之代表の三人が出席した。

富田社長は「リーマンショック以降に社員の給料を削減した。いざという時に仲間と同じ気持ちで困難を乗り越えることを学んだ」と起業の苦労を語った。一方、川合さんは「人生は一回しかない。自分たちで作ったものに自分の名前が付くことが、デザイナー冥利に尽きる」と喜びを説明した。

同センターは十月にビジネスプランの個別指導会も開催する。